

Tabula rasa

(図書館学生新聞) 第11号

ご挨拶。

皆さんこんにちは！すっかり冬へと模様替えですね…秋は終わってしまいました。え、まだ冬本番じゃない？！

それはさて置き、図サポ夏企画・クーラーいらずの夏。楽しんでもらえたでしょうか!? 皆さんに「怖いもの」を自由に書いてもらったところ、怖いものがたくさんあるみたいですね。先生方によるオススメ本もぞわりと来たのでは!? ちなみに私は『高野聖』がぞわぞわしました…!

今回の『タブラ・ラサ』の企画は、図書館サポーターによるオススメ本紹介。様々なジャンルがあって、眺めるだけでも十分楽しめる企画です! キャッチコピーに心惹かれるまま、本を手にしてみるのもいいかもしれませんよ☆この機会に是非、新しい世界へ旅立ってみてください!

(日本文学科3年 橋口安奈)

この号の内容

- * 図サポセレクション
- * オススメ・ラノベ特集 (2)
- * Bonjour, Paris!
- * 第三回「読書家大賞」受賞者
- * あなたにとって読書とは?
- * ゲート設置!!

お～い、ごちよう



梅光学院大学図書館学生新聞

『Tabula rasa』 第11号

発行日：2009年12月1日

編集・発行：梅光学院大学図書館サポーター

図書サポート

図書館サポーターが「あなたにぜひ読んで欲しい」という本を紹介します。おススメ本を読めば、推薦者がどんな人か分かる…？

◇坂口くらら（英米語学科 3年）

『さかしま』（ユイスマンス著・濞澤龍彦訳）[080/(9)ユ 2-1]

病弱で過度に神経質な主人公は、自分だけのための趣味で飾った「家」に憧れ、それを完成させようとする。主人公の偏りすぎた考え方、精神の弱さには私にとっては微笑ましいものがあるが、鋭い物の見方には感心させられる。ラテン文学をはじめとする様々な芸術への知識は素晴らしい。

趣味の固まりとも言えるかもしれないが、この本の中にしかない精神的な世界を堪能できると思う。

◇鈴田佳奈（日本文学科 3年）

『強運の持ち主』（瀬尾まいこ）[080/(50)せ 8-1]

占い師のルイーズ吉田は、占いを始めて3年。しかし、最近では直感で占ってばかり。ルイーズの元には、8歳の男の子、女子高生、若い男性などが訪れる。ルイーズは一体どうやって悩みを解決していくのか！？



◇成田義太郎（日本文学科 1年）

『空の境界』（奈須きのこ）[上・中・下 080/(23)な 71-1~3]

二年間の昏睡を経て目覚めた両儀式。異能との闘争を経て、式は何を思い何を感じるのか。本格ミステリーの切り口で描かれるボーイミーツガール、正直おすすめてです。

◇野村美貴子（日本文学科3年）

『大攔源氏物語 まろ、ん?』（小泉吉宏）〔注文中〕

＜光源氏が「ゆるキャラ」になって登場!＞

源氏物語全54帖を、1帖につき見開き2ページの漫画で描かれ、なんと光源氏が「まろ」というクリの「ゆるキャラ」になって登場します!時代設定も丁寧で、登場人物紹介・人物関係図・当時の風習・官位表・和歌等も収録され、源氏の年齢や官位が、その時いくつだったのかも一目でわかります。ちょっと斬新で、カワイくて、面白い「源氏物語」の世界を是非体験してみてください! 因みに、「雲隠」のページは真っ白です。(笑)

◇橋口安奈（日本文学科3年）

『桃尻娘』（橋本治）〔080/(23)は5-1〕

今時の高校生恋愛及び性事情を教えてくれる橋本治さんの『桃尻娘』。あたし、何も知らない訳じゃないんだからね! 決められた階段を昇るだけじゃ満足できない! もっと自由でいたい! 冒険してたい! だから玲奈は常にアナーキーで行く訳です。

不条理で矛盾だらけの窮屈現代に勇猛果敢に立ち向かうぶつとび玲奈と愉快的仲間たち。これを読んだ後も尚、きみは、みんなと同じでいたい? いろんなイミでオススメです☆



◇田中聖（日本文学科1年）

『ビタミンF』（重松清）〔913.6/57〕

「家族」を一貫して大きなテーマとしたこの短編集、人生の大きな分岐点である大学生にはまたとても考えさせられる作品となっています。家族の在り方、意義、愛情——自分の家庭を既に持っている人にもいない人にも、もちろんいつかは持たいたい人にも一度は読んで、そして考えてほしい作品です。

そして10年後に、20年後に再読してくれたら、きっと見えるものが変わっている、そんな二度美味しい作品（のはず）です。

オススメ☆ラノベ特集 (2)

やってきました！ライトノベル特集第二弾！今回は『終わりのクロニクル』（川上稔著、メディアワークス・電撃文庫）を取り上げたいと思います。……趣味に走りました。かなりマイナーだと思います。少なくとも、私の周りでは後輩一人だけです。寂しいです。

さて、紹介に入りたいと思います。この小説の舞台は現代なのですが、人狼とか魔女とか出てきます。武神（巨大ロボみたいなもの）や機竜（ドラゴン型のロボット）なども出てきます。それらは平行する異世界に存在し、互いに干渉しあっていました。それらの異世界を全て滅ぼして唯一残ったこの世界、Low-G(ギア)。概念戦争と呼ばれるそれは隠蔽され、一般の人々に知らされることはありませんでした。

主人公は高校生の佐山御言。彼は亡くなった祖父が遺した権利譲渡手続きのために、巨大企業 IAI に赴きます。そこで聞いたのは、この世界が間もなく滅びようとしていること。それを止めるには、かつて存在していた 10 個の異世界の生き残り達と交渉し、彼らが持つ概念を解放しなければならないということ。

『終わりのクロニクル』の魅力の一つは、**キャラクターの多様性**です。皆個性が立っていて、飽きることがありません。主人公である佐山は暗い過去を持つナルシスト。彼を囲むキャラも様々。佐山に容赦ないツッコミをするヒロイン、暴力夫婦にパシリのヘタレ後輩、金髪天然イジられ少女などなど。名前が出てこない人物さえ、とても魅力的に書かれています。脇役キャラが好きになります。

正直に言うと、これはかなり複雑な話です。一回読んだだけじゃ理解出来ないと思います。そして、非常に分量が多いです。1巻、2巻、4～6巻が上下巻、3巻が上中下巻、最終巻の7巻は一冊ですが総ページ数 1000 以上あります。もはや鈍器ですね。長編好きな方や複雑な設定が好きな方は挑戦してみてください。もちろん、戦闘シーンもあり、ギャグもあり、シリアスもあり。何でもあります。そしてシリアスとギャグの境目が分かりません。いろいろ**混在**しています。ともあれ、これを読んで『終わりのクロニクル』に興味を持って頂ければ幸いです。

(日本文学科3年 吉松絵理沙)



Bonjour, Paris !

図サポ長 ☆くらのパリ報告

本を読む中で出てくる地名等は、その地域の雰囲気を知って読むのと知らずに読むのではかなり違うイメージを持つことがあります。9月の末、フランスへ行きました。短い日数でしたが、パリ、シャルトル、ロワール等、多くの地域を観光出来ました。

以前から文学、音楽、絵画、建造物といった芸術面で、フランスに興味があったので、この観光を通して多くのものを得ました。コクトー、ユイスマンス、マルキ・ド・サド等、フランス文学に興味があり、中でも小説を読む切掛となったのがデュマ・フィスでした。今回、「あの時読んだ～というのはこういう所だったんだ」と、好きなストーリーを思い出しながらその場所を歩き、素敵な気分を味わうことが出来ました。

また、**芸術家が創作した場所**ほどの様な地域かということに興味があったので、自由時間にモンフォール・アモリー・メレという郊外にも行きました。作曲家のラヴェルが最後の20年間を過ごした地です。フランス人は挨拶さえきちんとすれば片言の英語でも聞いて答えてくれますし皆親切でしたが、田舎では特にそうでした。モンフォール・アモリーは駅からバスもタクシーも出ていない時間帯があり、地元の人が車に乗せてくれて、その地について色々なことを教えてくれたので、そこがヴィクトル・ユゴーの出身地であることを会話の中で知りました。

最後に、何でも少しでも多くの知識を身に付けてのぞむと楽しさが増します。そして、旅をすることで**何物にもかえられない感動**が得られるものだと思います。

(英米語学科3年 坂口くらら)



第三回を迎えた読書家大賞。11月の宗教講演会で図書館サポーターから受賞者が披露されました。また、参加者全員に図書館キャラクター‘ライブラリアン13世’グッズが進呈されました。第四回のご応募、お待ちしております。

☆第三回『読書家大賞』受賞者☆

◇大賞 橋口安奈（日本文学科3年）【図書券1万円進呈】

◇準大賞 山中成華（英米語学科4年）【図書券5,000円進呈】
田中聖（日本文学科1年）【図書券5,000円進呈】

◇健闘賞 高尾実咲希（日本文学科3年）【図書券3,000円進呈】
伊藤絹江（英米語学科4年）【図書券3,000円進呈】
和田あずさ（日本文学科3年）【図書券3,000円進呈】

◇ナイスコメント賞 落合桃子（英語英文学科1年）【図書券3,000円進呈】
兒林美沙紀（英語英文学科1年）【図書券3,000円進呈】

◇ナイスポップ賞 城野加奈子（日本文学科2年）【図書券3,000円進呈】

「読書家大賞」は梅光学院大学父母会課外活動等奨学金より、図書館サポーターが頂いたお金で運営しております。父母会のご厚意に、心から感謝致します。

応募方法：本学図書館所蔵の本を読んで一言コメントを図書館で投票。
または、大学生協主催の読書マラソンに応募。



◀ 図書館キャラクター
ライブラリアン13世

☆読書家大賞受賞者たちのコメント☆ 『あなたにとって読書とは？』

第3回読書家大賞受賞者のみなさんのコメントです。みなさんの読書への熱い思いを、ほとぼしる熱いパトスをたった一言で、あるいは文章で語っていただきました。

さて、みなさんにとってDOKUSYOとは？

◇橋口安奈（大賞・日本文学科3年）

いろいろなことを知ることができる機会。目指す読書形態は“真っ白な状態で本を読む”

◇山中成華（準大賞・英米語学科4年）：水

◇田中聖（準大賞・日本文学科1年）：紳士の嗜み、みたいな？（笑）

◇伊藤絹江（健闘賞・英米語学科4年）

ちょっと気になる部屋を気ままにノックし、つい隣のドアも開いて入りたくなるもの。自分の価値観と違うもの、今まで気付かなかったものに出会えること。

◇高尾実咲希（健闘賞・日本文学科3年）

もし失明したら、と考えると怖くてしかたありません。机でもカーテンでも窓でも、目が見えなくても触ればわかりますが、読書だけはそうはいきません。点字や音声テープといった様々な道具があるので、物語を知るだけなら可能です。でも、読書の楽しさの一つに「文字を見る」ことがあるのではないのでしょうか。例えば、「めを開いた」という文で「目」なのか「眼」なのか「瞳」なのかでニュアンスが変わります。そして、単語を漢字で表記するひらがなで表記するかも違います。小さなことですが、これがその本の雰囲気や左右するのではないかと思います。

読書の楽しさを知らなければよかったと思うこともありますが、過去を悔いてもしかたがありません。今はこの楽しさを奪われないよう、気をつけるばかりです。

◇城野加奈子（ナイスポップ賞・日本文学科2年）

今まで、私にとって読書とは心の成長を助けてくれるものでした。読書を始めたきっかけは、友人に勧められたという単純なものではありますが、本の世界に入り、娯楽として楽しむと共に様々な生き方や人としての在り方を学び、無意識のうちに「私」という人間性を養うものとなっていました。

残念ながら、現在は時間に追われ、娯楽としての読書は難しい部分もあります。しかし、娯楽でなくとも、自身の研究においてより質の高い情報を得、知識として身につけるためには、読書は必要不可欠なものです。

このように私にとっての読書とは、様々な角度から「私」を成長させてくれるものであるといえます。

図書館に入退館ゲート設置！ ～いっそう利用しやすくなりました～

《荷物の館内持ち込みができるようになりました！》

図書館入り口に新しく入退館ゲートが設置され、荷物を持ち込むことができるようになりました。従来どおり、利用者証(学生証)は必要です。

〈入館〉

入館ゲートのバーを押して入館して下さい。荷物は持ち込めますが、飲食物(ペットボトルも含む)の持ち込み、携帯電話の使用は禁止です。荷物を放置したり、場所の確保の為に利用することはやめましょう。ロッカーは以前と同じく利用できます。

〈退館〉

退館ゲートのバーを押して退館して下さい。貸出し手続きをしていない本をそのまま持ち出すとアラームが鳴り、バーが開かなくなるので気をつけて下さい。退館する時は荷物や利用者証の忘れ物がないかチェックしましょう！
(野村・鈴田)



編集後記・・・

食欲の、芸術の、そして読書の秋が過ぎ去り、冬になりました(^▽^)

タブラ・ラサ 11号をお届けいたしました。図書館サポーターの、オススメ図書特集はいかがでしたか？ これらの本は、皆さんに是非読んで欲しい一冊です。自分だけでは、面白い本を見つけられることも限られますが、お互いに教え合えば、たくさん本を知る機会が増えます。今回ご紹介した本は、図書館入り口近くの棚にて展示する予定ですので、どうぞご覧ください！！

(≧▽≦) これをきっかけに、読みたい本が増えるといいですね。(*´ω`*) v

(日本文学科3年 野村美貴子)